

平成25年度第1回小牧市男女共同参画審議会議事要旨

1 日 時：平成25年6月27日（木） 午前10時00分～

2 場 所：小牧市まなび創造館 研修室

3〔出席者〕

委 員：代田義勝、宮崎康弘、林義人、牧とよ子、松井幸子、
林千代子、岩下道子、市川紀六

事務局：安藤教育長、中嶋教育部長、舟橋教育部次長、羽飼館長 他

〔欠席者〕

委 員：松田照美、大野順子

4 議 題

- (1) 小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅡの推進状況（平成24年度事業実績）について
- (2) 市民意向調査（案）の検討について
- (3) 今後の取組みについて

5 審議会概要

開会・あいさつ

〔事務局〕

本日は、お忙しい中男女共同参画審議会にご出席くださりましてありがとうございます。今回は役員の変更ということで、委嘱状の交付がございます。

— 委嘱状交付 —

〔事務局〕

それでは、ただいまから平成25年度第1回小牧市男女共同参画審議会を開催いたします。始めに教育長の安藤からご挨拶申し上げます。

〔教育長〕

皆さんおはようございます。委員の皆様には、日ごろより男女共同参画推進のためにご尽力いただきありがとうございます。

平成13年に内閣府に男女共同参画局が置かれ、それを基にして全国の市町村に男女共同参画部署が設置されました。これを機に女性の経済的自立を奨励するという動きが活発化し、今日に至っております。例えば男女雇用機会均等法成立する以前の女性の就業人口は1,548万人、それが2011年—これが最新のデータですが—には2,632万人。この間に約1,100万人の女性が職に就いている。これは非常に大きな改革ではないかと感じております。

また、最近では安倍首相が成長戦略の一つとして、女性の地位向上に取り組み、そして女性の力をこれからの社会の中で活用していきたいと打ち出しております。

例えば、教育現場に目を向けてみますと、愛日地方一尾張旭市や豊明市、瀬戸市、春日井市、北名古屋市長須市や東郷町、小牧市等一の全体で187校の小中学校があります。教頭・校長の管理職が大体校数の倍として374名、その中で女性の管理職は約40名、割合にすると11%前後となっています。これは愛日地方だけのデータですが、まだまだ女性の管理職は少ないのが現状です。能力のある女性ほど

んどん管理職として登用していかなければならない、そんな時代になってきていると感じました。

小牧市では、平成16年3月に男女共同参画基本計画ハーモニーⅡが策定されました。ハーモニーⅡは向こう10年間の市の男女共同参画の指針となるものでしたが、このハーモニーⅡは、残すところあと1年あまりとなりました。これにつきまして、本審議会の中で前年度の事業実績、本年度の事業の概要、更には国や県の情報を提供させていただきたいと考えております。皆様には、本審議会が実りあるものとなるよう、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

〔事務局〕

本日の欠席者は大野委員と松田委員。傍聴の申し出はありません。本日の会議は公開とし、情報コーナーに公開させていただきます。

続きまして、本日は第1回の審議会となりますので、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。

— 委員自己紹介 —

〔事務局〕

ありがとうございました。次に、事務局側の紹介をさせていただきます。(職員紹介)

続きまして、審議会の会長及び副会長の選出を行います。小牧市男女共同参画審議会規則の第2条2項により、委員の互選となっておりますので、どなたか推挙願います。

— 委員より推薦 —

〔事務局〕

ただ今、松井委員より代田委員を会長に、岩下委員を副会長にとの意見がありました。他にございませんか。

ないようですので、代田委員に会長、岩下委員に副会長をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

— 異議なし —

〔事務局〕

ありがとうございます。それでは、会長に代田委員、副会長に岩下委員が決定いたしました。恐れ入りますが、会長、副会長は席をお変わりください。

それでは、ここで会長から挨拶をお願いいたします。

〔会 長〕

ただいまご紹介いただきました代田です。この男女共同参画審議会は、皆さんもご存知のように大きな使命が二つあります。一つは、小牧市の男女共同参画がきちんと推進されているかどうかをチェックする役割。もう一つは、基本計画の策定です。現行のハーモニーⅡの策定以来、ハーモニーⅡの計画が実行されているかどうかをチェックすることが審議会の主な役割でしたが、今年度・来年度にかけて新たな指針、つまり基本プランを策定していかななくてはなりません。これは非常に大きな仕事となりますが、皆様方のお力添え

をいただき乗り越えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

〔事務局〕

ありがとうございます。

続いて、副会長に挨拶をお願ひいたします。

〔副会長〕

岩下です。力不足かと思えますが、頑張つてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

〔事務局〕

ありがとうございます。

それでは、議題に入る前に、大変申し訳ありませんが教育長・教育部長につきましてはこれから公務が入つており、退席させていただきます。

— 教育長・教育部長退席 —

〔事務局〕

それでは議題に移ります。男女共同参画審議会規則第2条の規定により、代田会長に取り回しをお願ひいたします。

〔会 長〕

それでは、議題に入ります。

まず議題の(1)、平成24年度小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅡ推進状況について、事務局から説明をお願ひします。

〔事務局〕

はい。ではまず説明に入る前に、委員の方も変わられましたので、小牧市男女共同参画基本計画の経緯について説明させていただきます。

平成6年に、小牧市女性問題懇話会の提言を受け、平成15年を目標年度とした市の最初の計画である「小牧市女性行動計画ハーモニー」を策定いたしました。平成7年には市民を対象に、男女平等に関する意識調査を実施するとともに小牧市の男女共同参画型社会の形成に向け、学習の振興を図るため、こちらの小牧市まなび創造館女性センターを開設しております。

また平成15年4月には、男女共同参画を推進するための基本的な考え方を定めた「小牧市男女共同参画条例」を施行しました。このことを受け、従来の小牧市男女共同参画推進懇話会を廃止し、この小牧市男女共同参画審議会を設置しております。そして平成16年3月に、小牧市男女共同参画条例8条に基づき「小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅡ」を策定しました。

この計画は、平成16年を初年度とし、平成25年度を目標年度とする10ヵ年計画となっております。従つて平成25年が改訂の時期となっております。しかしながら、平成26年度には、小牧市の総合計画を見直すとの報告がありましたので、それに合わせて

進めて行きたいと考えております。

それでは議題の1、平成24年度小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅡの推進状況について、説明させていただきます。

資料1がハーモニーⅡの推進状況の報告書となります。資料2が審議会委員の女性登用状況です。資料3は行政委員会委員の女性の登用状況、資料4は平成25年度の市職員女性登用状況です。資料6は小牧市男女共同参画普及員の設置状況です。

資料1については関係各課のハーモニーⅡの推進状況であり、多くの課に跨ってしまうため、具体的な説明が難しい部分もあります。ご質問をいただいた場合は、担当課に確認の上、後日回答させていただきます。

次に、資料2と3をご覧ください。資料2が審議会、資料3が行政委員会の女性の登用状況についてのデータです。それぞれ合計をご覧くださいますと、それぞれの数値はほぼ横ばいとなっております。しかし、この表の問題点としましては、土地区画整理審議会や選挙管理委員会、農業委員会等の女性登用率が0%となっている点かと思えます。この点につきましては、例えば土地区画整理審議会については、土地区画整理審議会の委員は選挙で選ばれるとされており、被選挙権を持つのが土地の所有者であり、土地の所有者は大多数が男性であるため、このような結果となっております。

次に、資料4の市職員の女性登用状況について、平成25年は次長から主査職までの全てにおいて割合が上がってきております。これは非常に良い兆候であると考えます。

続いて資料5の男女共同参画普及員の設置状況についてです。男女共同参画普及員は、平成19年度から各地区に配置しており、毎年微かにではあります着実に伸びてきていたところ、平成23年度の29区から平成24年度は25区と、4区7名の減少になっておりました。しかしながら、平成25年度は28区となり、持ち直してきたように思われます。これからも、市内の全地区への配置を目指し、配置区を増やしてまいりたいと思っております。

4の議題につきましては以上です。

〔会 長〕

ありがとうございました。

それでは、昨年度の実績及び今年度の内容で、特に説明したい部分はありますか。

〔事務局〕

特にありません。

〔会 長〕

今の事務局からの説明について、まずハーモニーⅡ推進状況報告書の中の事業実績の概要、今後の考え方の資料を基に皆様のご意見、ご質問をお聞きしたいと思っております。

まず、『Ⅰ あらゆる分野への男女共同参画の促進』『1 政策・方針決定の場における男女共同参画の推進』『2 家庭における男女共同参画の促進』『3 地域活動や団体・グループ活動における男女共同参画の促進』、この分野についての実績あるいは今後の考え方について、何かご質問、ご意見等あればご発言ください。

〔委員〕

この資料は、2年前の専門部会の際にも同じものを見せてもらいました。私の社会経験の中で、経営企画業務に携わったことがあり、その際は中期計画・長期計画を作る仕事をしてきました。自分たちが作った計画は、このハーモニーⅡのように自分たちがやりたいこと、やれることを詰め込みました。それを外部のコンサルタント3社ほどに見てもらったところ、言われたことがあります。それを元にお話すると、

- ・「この目標は、誰がフォローしていくのか」
- ・「役所がやりたいことと、市民が実施してほしいこと、求めることは違うのではないか」
- ・「この目標は、小牧市がこうなりたい、というものに結びつくのか」
- ・「結びつくのであれば、それはどのように関連するのか、関連を見えるようにして欲しい」ということです。

一番大事なことは一体何か。全て横並びで優劣をつけていないのではないかと思います。これは小牧市以外の国、県、どこでも同じです。しかし、市民が見て、小牧市が良くなりそう、と思えるような目標を定めるべきではないでしょうか。

〔会長〕

おっしゃることはよくわかります。ただ、男女共同参画というものは、一つの部署だけで推進できることではなく、あらゆる部署が関わってきます。そのため、ハーモニーⅡは柱をいくつか立てています。そして、その柱の部分について、昨年の実績はどうであったかとみる以外、目標達成の確認方法が難しいものであると考えます。

しかし、それでは男女共同参画審議会は何をしてきたかという話にもなります。そこは、例えば小牧市でいえば、地域にまだ保守的な部分が強く残っている。それで、審議会の中で、地域の保守的な部分に重点的に取り組みましょうということで、区の状況を調査し、男女共同参画を普及させるための委員を置かせてもらおうという話になりました。これが現在の普及員になっています。

このように、その都度その都度で何が大事であるかを審議してきていますし、目標達成のための手段を講じてきているかと思えます。

〔委員〕

私は現在のやり方を否定するものではありません。しかし、普及員を作ったことで、すぐに小牧市の中でも特に保守的な地域等での男女共同参画が進んだかと言えば、そうでない部分も多いのではないですか。それよりも、若いお母さんが働きやすい環境を作る等の方が、市民目線からすれば優先事項なのではないかと思えます。

例えば、私は小牧市民大学こまきみらい塾の講座の中で、子どもを保育園に預けるお母さんにアンケートを取ったことがありました。そのアンケートを集計すると、働くお母さんたちの一番の心配事は、子どもが病気になった時のこととわかりました。1日だけでなく、数日休むことになると仕事に支障が出るし、職場にも申し訳ない。それをサポートして欲しいと感じているようです。

これをサポートしようとする、病児保育等、組織の枠を超えた体制が必要になり、また企業に対しての働きかけも必要になってくるため、難しいかもしれない。でもそれなら、問題に対しての各セクションの取り組み状況を分かるようにして欲しいと思えます。この目

標をぱっと見て、市民がわかりやすいかというと決してそうではない。なら、誰にでもわかりやすいものを作ってほしいと思っています。

〔会 長〕

例えば DV と児童虐待、これは違うもののように見えますが、実態は結びついたものです。そこで、市は横断的な連絡会議等の場を設ける等して、重点的に取り組んでいます。すぐに見えるものばかりではありませんが、市で取り組んでいるものは多いと思います。

〔委 員〕

私の言いたいことは、そういった形で取り組んでいる活動があるのであれば、それを見えるようにして欲しいということです。

〔会 長〕

それぞれの部署での取り組みは、年々成果が出てきていると考えます。子育て支援についても、数年前に比べてかなり充実してきていると思います。ですがその反面、まだ取り組みが不十分でないかと感じる部署もあります。これは、行政が縦割りであることに起因する部分が大いように感じます。そのため、できれば各問題に対して、DV の連絡会議のように、課を跨いだ形で何が協力できるかを把握しあうと効果的かもしれません。

〔委 員〕

各目標を、重要度別にランク分けするのはどうでしょうか。分かりやすくなりませんか。

〔会 長〕

わかりました。

プランの策定ということになると、国や県の方針もあり、それを踏まえなければなりません。もちろん小牧市独自の課題については、小牧市独自で考え、取組まなければならないと思います。こういった点も含めて、どこまでできるかの判断も必要だと考えます。

もう一つ、市民目線という点ですが、企業の場合であれば、顧客のターゲット層は明確であり、限られていると思います。しかし、政治・行政の場合は必ずしもそうではない。限られた予算の中で、高齢者に使うのか子育てに使うのか、色々な考えがあり単純にはいきません。そこをしっかりと考えていくことが必要だと思います。

〔委 員〕

私が資料を見て思ったことは、細かい課題についてはそれぞれの担当課が吸い上げていく必要があるということです。この審議会では、ああしなさい、こうしなさいといった細かい指示をするのではなく、考え方を示していきたい。会社の業績について考えれば、トップはまず売り上げを上げろと言う。でも、そのことに対してトップはこうしなさい、と方法まで示すかというところではない。それは、それぞれの担当部署が考えながらやっていきます。

私の思いとしては、この目標は、あくまで大枠でしかないということです。それぞれの担当の部署がそれぞれ考え、試行錯誤しながら進んでいくべきでないかと考えます。

〔事務局〕

確かに縦割り行政かと言われれば、国、県それぞれがそれぞれのポジションにおいて、様々なことを行っている。ですので、どうしても子どものことであれば子育て支援課、福祉のことは福祉課、のように分かれてしまいます。最後には、この目標や実績をもっと分かりやすいものにしなければならないと思います。

「男女共同参画」は、男女の平等を目標としています。例えば職場で、男性でも女性でも同じように活躍できることを目指している。今後はもっと社会を良くしていく、という目標を持っています。それは難しいことではありますが、何か一つから進めていかなければならない。そういった点で、この目標を進めていくのも重要だと考えます。

〔委員〕

我々が仕事の中で思うことは、目的がまずあって、目的を達成するための手段が何個もある。その手段を我々が決めてしまって良いのかということです。市民に喜ばれるという考えは、普通の会社員が喜ぶ施策です。

〔委員〕

今までのお話はどんなことなのか、自分なりに考えてみたのですが、例えばこの1ページ目の「① 女性委員の登用率の向上」であるとか、「② 女性の人材の育成と発掘」、「③ 女性の管理職への積極的登用」の部分が横並びで書いてあります。これら3つは、順番から言えば、多分②の中の「市の各種審議会等に参画できる～」があり、次に「幅広い分野への女性の社会参画を図るため～」があり、最終的に「各種審議会等に女性委員の積極的な登用を図り～」に繋がるのではないかと思います。この3つの関連は、矢印で示すことができるのではないかと思います。それが並べてあるだけなので、分かりにくいのではないかと感じます。商工観光課の部分でも、最終的に持って行きたい目標があっても、やっていることが羅列してあるだけであるので、そこは分かりやすく記載した方が良いと考えます。

〔事務局〕

今、委員の方々がおっしゃったように、変化に対応していくのが重要であると感じました。一つのところに固まってしまうのではなく、色々な面から問題に対応していきたいと思います。

〔会長〕

これから2年間は、新プランの策定という重要な仕事があります。現行のハーモニーⅡでも何を一番目に持ってきて、何を次に持ってくるのかというのは、適当に決めて並べてあるわけではありません。重要度に応じて並んでいます。その中で、さらに何を大事にしていくかを考えなければならないかもしれません。さらにもう一つは、市民に分かりやすいテーマという視点も重要であると思います。

では、これまでは全体にたいする発言をしていただきましたが、次は内容に関しての細かいご意見をいただけたらと思います。

〔委員〕

全体的に言えることですが、数年に渡って数字以外の変更がほぼ見られない点が問題ではないかと思います。特に、毎回発言しているのが、商工観光課の部分。チラシやポスターでの周知を図るとしてはいますが、これは私が委員になって4年はずっと続いています。毎回、これではいけないと言っているのですが、変わっていない。今後の考え方にも変化がありません。これで果たして推進状況が改善されるのか、もっと厳しい目で見えていかななくてはならないと感じます。

〔会長〕

私も商工観光課には言いたいことがあります。パンフレットを配布しても、見てもらえなければ意味がない。そういう点を実績とするのではなく、一步踏み込んでどういうことができるのかを考えて欲しい。

その他にご意見はありますか。

〔委員〕

企業のトップに、男女共同参画についてわかってもらうのはまだなかなか難しい部分も多いと思う。まなび創造館が主体となり、企業の人事担当者向けに男女共同参画についての講座を開いてみてはどうでしょうか。

〔委員〕

まなび創造館が声をかけるのでは、企業の参加は見込めないと思う。教育委員会ではなく市役所、特に商工観光課等の課が声をかけるのが良いと思います。

〔委員〕

小牧市は、市のトップが子育て世代であるという恵まれた環境にあります。小牧市が先頭に立ち、男女共同参画を推進するくらいの気持ちを持ってほしい。

〔委員〕

中小企業は、子育て応援等に力を入れていることを、もっとアピールしてみてはどうでしょうか。

〔委員〕

子育て応援等に力を入れている企業は、もっと行政に対してアピールし、行政はそれに応えて企業の表彰を行うくらいしても良いと思います。

〔会長〕

市民意向調査を行う際は、企業向けにも調査を行いますので、そのような質問項目を設けても良いと思います。

〔委員〕

ファミリー・サポートについて。ファミリー・サポートは、素晴らしいサービスだと思うのですが、周囲はこういった制度があることを知らない人が多く、認知度が低い。目標に、認知度や利用率を上げるといことを書いてありませんが、利用率を上げるためにも、ぜひ広めてほしい。

〔委員〕

私は保健連絡員として活動していますが、その活動の中に「赤ちゃん訪問」というものがあります。生後3ヶ月以内の乳児がいる家庭を訪ね、話をうかがいます。その訪問の際、ファミリー・サポートセンターの場所等が書かれた小牧市の子育て支援についての冊子を持参します。こういった部分での周知は図っていると思いますが、これはあくまで赤ちゃんに対する支援の一環であり、赤ちゃんがいない家庭には届きにくいのかもしれません。

〔委員〕

私も、依頼されてファミリー・サポートの活動を行っています。私が預かるお子さんはいつも同じ家庭のお子さんですが、その家庭は上手にファミリー・サポートを利用されていると思いますよ。

〔委員〕

どうやってファミリー・サポートの情報を知ったのですか？

〔委員〕

私は個人的に依頼を受けました。ファミリー・サポートは、預かる側と預ける側がそれぞれ会員登録を行いますので、預かるお子さんの家庭は、私が会員に登録したところ、近くの方を紹介する形で知りました。

〔委員〕

そのように上手に利用している方がいるのであれば、なおさらもっと積極的に周知を図っても良いと考えます。

〔事務局〕

担当課からは、周知のための冊子を作っているが、まだまだ認知度が低いと聞いています。担当課の子育て支援課には、もっと積極的に周知を図るよう依頼を行います。

〔会長〕

おそらく子育て支援課で、利用者の方々の声を集めているのではと思います。それがあれば、次回の審議会の際に確認させてもらいたい。

それと、利用者の数の推移のデータも知りたいと思います。

〔委員〕

現在の小牧市のホームページはセクション毎に分かれています。このような形ではなく、例えば「働くお母さんの支援コーナー」や「企業向けコーナー」等に分けたら見やす

くなるのではないのでしょうか。顧客視点に立ったホームページ作りを行ってほしいと感じます。

〔会 長〕

その他、何かありませんか。

ないようですので、事務局へお返しします。

〔事務局〕

それでは、これをもちまして平成25年度第1回小牧市男女共同参画審議会を終了いたします。

本日はありがとうございました。